市民読書サポーターだより

みしのたくかにと

No. 264　2023. 10. 1

【発行】
富士宮市教育委員会
社会教育課
☎ 0544-22-1186

「絵本とわらべうたの会」2023 年度⑦

日　時　11 月 7 日(火) 10:00～11:00
場　所　大富士交流センター ２階 和室
定　員　12 組程度
申込み　10/17(火)～

就園前の子どもとお母さんを対象にわらべうたで楽しいひとときを過ごします。
事前に参加申し込みが必要ですが、当日来ていただいても定員に余裕がある場合はご参加いただけます。

市民読書サポーターのいる日程　10 月

市立中央図書館（10:00～12:00）	７日（土）	14 日（土）
	21 日（土）	28 日（土）
西公民館	３日（火）　10:30～11:30	

「ぼくがみつけたんだよ！」 図書館サポーター児童コーナーにて

中央図書館児童コーナーのソファーの上に、『ピーターラビットのおはなし』のシリーズの本を何冊も積み上げ、熱心に読んでいる男の子に声をかけました。小学校１年生だという男の子は「ピーターラビットの本があったんだよ。ぼくがみつけたんだよ！」とうれしそうに、そして得意げに言いました。キャラクターとして知っていたピーターラビットに本があったんだという驚きと自分が図書館で見つけだしたんだという気持ちがこちらにも伝わってきました。それで図書館に来るたびに、こうして積み上げて読んでいると言うのです。しかし、様子をうかがっていると、読んでいた本はシリーズ中の『モペットちゃんのおはなし』という子猫のおはなしだけでした。見開きの絵についている文章が３～４行程の、１年生でも読めそうな字数のおはなしです。その本を繰り返し繰り返し読んでいます。

ピーターラビットのおはなしシリーズは、内容的には１年生が自分で読むのは難しいものもありますが、読んでもらえば十分楽しめるものです。「しっぽをとられたリスのおはなしを、読んでみる？」と『りすのナトキンのおはなし』を読んであげました。「りすのしっぽの船がおもしろいね」と言って聞いていた男の子は、「今日はこれも借りていこう」と言って、いつもの子猫のおはなしと２冊を持って帰って行きました。

（市民読書サポーター　若林清美）

本の紹介

くまのパディントン

マイケル・ボンド　作
松岡享子　訳
福音館書店

ロンドンに住むブラウンさん夫妻は、パディントン駅でへんてこな帽子をかぶったクマを見つける。クマは古ぼけた大きなスーツケースの上に座り、「どうぞこのクマのめんどうをみてやってください。おたのみします」と書いた札を首からぶら下げていた。夫妻はクマを家に連れて帰り、パディントンと名前をつけた。好奇心旺盛で何でも鼻を突っ込みたがるパディントンの周りでは、さまざまな事件が巻き起こる。挿し絵はパディントンの表情が豊かに表現されていて楽しめる。続編がある。

ふたりのロッテ

エーリヒ・ケストナー　作
池田香代子　訳
岩波少年文庫

山の中の湖のほとりに少女たちが休暇をすごす子どもの家があった。ウィーンから来た活発なルイーゼと、ミュンヘンから来たおとなしいロッテがそこで出会う。会ったとたんにお互い顔を見合わせてびっくり。ふたりはそっくりで、話をしているうち、実は双子で両親の離婚でルイーゼはお父さんと、ロッテはお母さんと暮らして、別々に育ったことが分かる。ふたりは、両親を和解させようと、入れ替わってそれぞれの家に帰る。性格も食べ物の好みも違うふたりの、スリルある入れ替わり作戦は、まわりの大人の気持ちを動かしていく。

＊読書と読み聞かせ推進事業のメルマガについては裏面をご覧ください＊